

○平成31年～令和1年の活動

○展示

熊本市蓮台寺文化財資料室にて土器・瓦・石製品などを展示中
 熊本博物館にて土器・瓦・石製品などを展示中
 熊本市塚原歴史民俗資料館にて池辺寺跡復元建物模型レプリカを展示 「熊本市遺跡発掘速報展」12月20日～2月24日



○講演など

池辺寺観音祭講話 9月10日

○見学会・ウォーキング

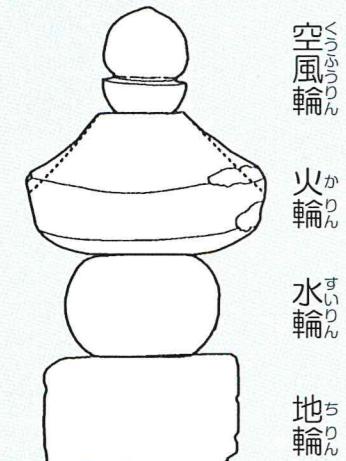
JR九州ウォーキング
 「歴史・伝説に彩られた熊本市西区をウォーク」 5月11日

○地域行事

池上小学校「味生祭」 2月10日



来迎院地区から出土した
 五輪塔(空風輪)



お問い合わせ

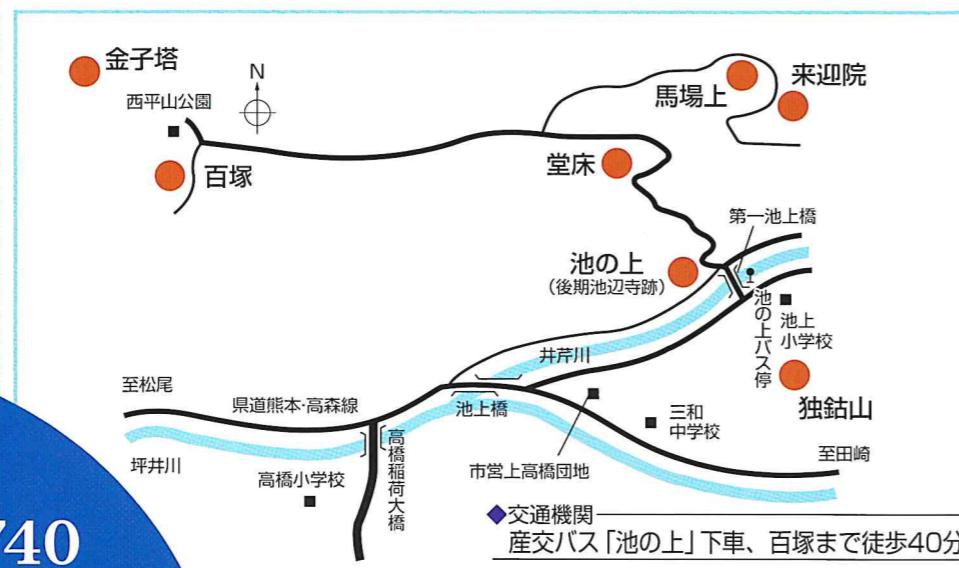
熊本市役所文化振興課
 球藏文化財調査室

TEL.096-328-2740

E-mail : maizoubunkazai@city.kumamoto.lg.jp

○出土品の紹介⑩ 五輪塔

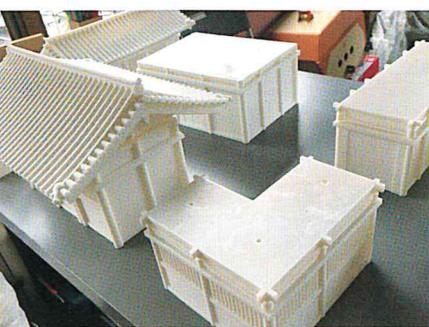
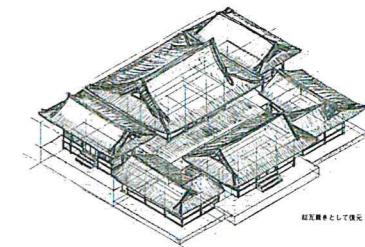
古代に創建された池辺寺は明治時代までの約1000年間存続したお寺です。約1200年前の平安時代には百塚地区に中枢がありましたが、それからおよそ500年後の中世になると、池辺寺の痕跡は馬場上地区や来迎院地区で顕著にみられます。百塚地区から北東に位置する丘陵に両地区があります。現在はミカン畑が造られている畠地ですが、畠の石垣などに中世時期の五輪塔の部材が多く転用されています。本来は複数の部材で塔を成す五輪塔ですが、四角に近い火輪や地輪が石垣に使われています。五輪塔は本来、供養塔や供養墓として建てられます。中世になると一般的な墓となり、寺の境内などに建てられます。この地で発掘調査を行った際にも、現代の石垣に転用されているものや、地面に散乱しているものが見つかっています。中には梵字が刻まれているものもあり、山岳密教や修験と関わりの深い池辺寺との関連を思わせます。中世段階には池辺寺に関する施設がこの地にあり、多くの五輪塔が建てられていたことでしょう。



池辺寺リポート

○池辺寺跡復元建物模型のレプリカを制作しました！

熊本市西区池ノ上地区の山中には、今から約1200年前に池辺寺という古代寺院がありました。池辺寺にまつわる伝説を記した江戸時代の絵巻「池辺寺縁起絵巻」には、当時の人工池である味生池に棲む悪龍を鎮めるために建立されたと記されています。熊本市の発掘調査により、百塚地区では古代池辺寺の中核であった百塔と本堂建物跡が見つかっています。熊本市では池辺寺を広く周知し活用することを目的に、かつて存在した池辺寺本堂の模型レプリカを制作しました。約1200年前の建物自体は発掘調査で出土していませんが、柱を据える礎石の配列や同時期の建物に関する資料から、当時の本堂を復元しています。あくまで推定の復元ですので、このような建物が建っていたかは不明ですが、池辺寺をより簡単にイメージしてもらうことができると思います。実物の約1/30の大きさで、3Dプリンターを用いて制作しました。持ち運びが可能なので、今後池辺寺に関する講演や展示の際には積極的に活用する予定です。普段は熊本市蓮台寺文化財資料室（熊本市西区蓮台寺）にて公開していますので是非ご覧ください。



復元建物模型レプリカ

○池辺寺調査の歴史②

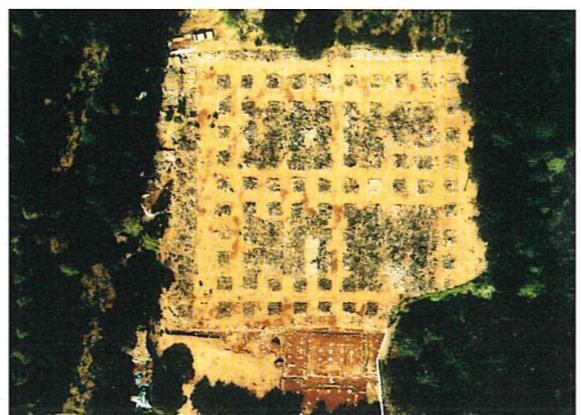
昭和61年12月から昭和62年2月まで行われた堂床地区での発掘調査が終わり、現在国史跡となっている百塚地区の調査が本格化しました。百塚地区の調査は昭和62年4月に大きな進展を見せます。

雑木や下草の除去作業を行っていた際に、散乱する多量の石や礎石の一部、瓦などが発見されたのです。調査区を設定し、少しづつ表土を除去すると建物の柱を据える礎石列と敷設された壇（古代のレンガ）が出土し、建物の基礎である基壇が確認されました。池辺寺はその存在感から「百塔」が目立ちますが、実は本堂が建っていた基壇部分が先に発見されたのでした。池辺寺の本堂跡と考えられることから、周囲に関連する遺構がないか踏査が行われ、同年7月頃に建物基壇の西側斜面に多量の石が散乱しているのが発見されました。後に、この散乱した石が百塔を構成する塔の石材であることが分かります。建物基壇を確認した後、西側斜面の百塔部分や南側の平坦地まで調査を行い、周囲の関連遺構の確認に努めています。西側斜面に池辺寺に関連する遺構(百塔)の存在を見つけて、平成元年から調査の主体が西側斜面一体に移ります。再び雑木の伐採を行い、散乱した多量の石を図面に記録する作業は非常に困難で時間を要しました。散乱した石を除去し、塔の基礎である方形の石積みを確認できたのが平成3年の9月に入ってからでした。百塚地区の調査を本格的に開始してから、約5年が経過しています。

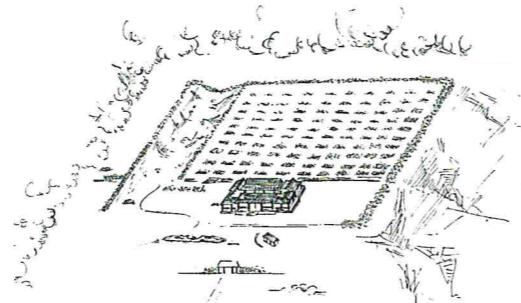
平成5年に塔が百基存在することが明らかになったことで、金子塔に記されている「池辺寺の根本御座所（中枢）は百塔である」という碑文と合致することも分かり、百塚地区の建物跡が古代の池辺寺跡であることがわかりました。調査は百塚地区が主体となり、各石塔の検出・記録作業が進み、平成6年に熊本県指定史跡、平成9年に国指定史跡に指定されました。しかし、この段階ではまだ古代池辺寺の中枢は明らかになっていませんでした。百塔と本堂建物周囲には、まだ関連する施設があったのです。国の史跡に指定された後も、古代池辺寺中枢の全容を把握するための調査はまだまだ続くのでした…



発見当初の建物基壇（西から）



本堂建物跡と百塔



百塚地区の復元想定図



熊本市立池上小学校3年生児童（令和元年度）
の作品です。

あじうの いけ りゅう
「味生池と龍」伝説を描いています。

